

9月入学制に関する全国関係団体からの主な意見

<9月入学制について>

■ 推進すべきとする意見

- 産業界に直接的に関わる大学教育に関しては、大学のグローバル化やグローバル人材の育成の観点から、国際基準である9月入学への移行を前向きに検討すべきである
- グローバル化に対応していくことにつながるため、将来的に導入していくことは良いことである
- 数年かけてじっくり議論をしたうえで、社会全体が納得する形であれば反対しない
- 学生への教育機会の保障にもなり、国をあげて教育について正面から取り組む良い機会となる
- 今後の大学の将来像を描くうえで、9月入学そのものの導入可能性は否定されるものではない

■ 慎重に議論すべきとする意見

- 就職の時期や行政・企業の会計年度なども含めて社会に幅広い影響を及ぼすことになるため、国家的重要課題として各界各層を交えて国民的な骨太の議論が必要
- 公立小・中学校の設置主体である自治体の現場の意見を十分聴く必要がある
- 社会的合意が取れないままに導入することは賛成できない
- 日本独特の文化や生活習慣に根付いて定着している制度を大切にすべき
- 9月入学に移行することは課題が多過ぎて、特に幼児教育においては、その必要性もなく、混乱を招くばかりである
- 移行措置により、生まれ月の違いで、学年の分断や、子供の幼児教育期間が縮減する等の不平等が生じることは許されない
- 学校教育と国民生活がシームレスに連動できなくなり、生活の乱れ、保護者の経済的負担が増加することが懸念される
- 9月入学の問題は、すべて学校、経済界や地方公共団体や関係機関等と国民の理解を得ながら慎重に検討すべきものである
- 社会全般との調整が必要にも関わらず、「諸外国に合わせる」という理由のみでは、積極的に秋入学を導入するための根拠にはなり得ない
- 9月入学となり、冬季休業期間中に、全国的な体育的行事を実施することは、特に積雪の多い地域では困難

<来年度から9月入学制に移行することについて>

■ 推進すべきとする意見

- 国民を含む集中的な議論を経て、極力早急に方針を定めて、この1、2年内に進めることが望ましく、先延ばしにすれば、教育改革の機運が弱まる可能性がある
- 一部の大学では既に、入学時期や卒業時期の柔軟化がすすめられ、企業側も通年採用で対応するなど、多様化が進んでおり、現実的な選択である

■ 慎重に議論すべきとする意見

- 今は新型コロナウイルス感染症対策に全力で当たるべき時期であり、新型コロナ対策とは切り分けて、時間をかけて冷静に議論する必要がある
- 今でも様々な緊急対応で大変な中で、市町村の教育現場に更なる混乱や負担を招くことは絶対に避けるべき
- 子どもや保護者の意識醸成が大事であり、また、社会全体の変革に繋がるものであることから、十分な議論を行い、一定の準備期間を取る必要がある
- 各種制度改正に膨大な調整が生じるため、数年間の準備期間が必要となる
- 一定期間増加する児童に対応するため、教室不足、教員確保、予算確保等、自治体にとっては大変な難題に直面することになる
- 国家の重大要件である学校制度の大きな変更を、現在のような世界的に混乱した状況において、短期的な議論で決めようとすることは極めて危険である
- 高校や企業との接続についての検討が十分に行われない中で大学における早急な9月入学導入は困難であり、半年遅い卒業時期が医療・福祉現場の人材確保に及ぼす影響は甚大
- コロナ禍で疲弊した社会に更なる混乱を招きかねず、拙速に導入決定することには疑問を禁じ得ない
- 今回のコロナ対策として9月入学により形式的な学習機会を保障しても、教育の質の保証を担保できるものではない
- 刻々と変化する状況に応じることを求められている学校現場に、更なる負担を強いる来年度からの秋入学への移行は、現場の混乱を生むだけ
- 国民全体の理解が求められるものであり、未曾有の非常事態である現状における議論は適切ではない
- 生活環境が悪化している子育て世帯にも、更なる負担増を強いる懸念がある

< 9月入学制についての意見 >

【高校】

岐阜県教育委員会調査 (R2. 5. 2)

第2回岐阜県新型コロナウイルス感染症教育推進協議会 (R2. 5. 8) 資料再掲

生徒・保護者	校長・教員
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度途中の実施に賛成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の生徒が平等に学校生活をスタートできる ・ 大学入試や就職試験までの準備期間を十分確保できる ・ 学校行事や部活動が実施でき、充実した高校生活を送ることができる ○ 慎重に検討が必要 (今年度途中からの実施は困難) <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の子どもたちが犠牲にならないようにしてほしい ・ 8月まで休校が続くのであれば、仕方がないのではないか ・ 短期間での制度改革には不安があるので、社会全体を考えて検討してほしい ○ 現状を考えると実施すべきではない <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の子どもたちへの支援を最優先に考えてほしい ・ 人生に関わる大切なことを混乱の中で決定してほしくない ・ 大学入試や就職試験までの時期が延びると精神的につらく集中力がもたない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度途中の実施に賛成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力の保障 (学習進度や学力定着) の観点から効果が期待できる ・ 海外留学や進路選択の幅が広がる ・ これまでも議論はあったが、これを機に移行する方向に進むのがよい ○ 慎重に検討が必要 (今年度途中からの実施は困難) <ul style="list-style-type: none"> ・ 移行期の混乱や社会の構造変化に伴う生徒の心的影響を最優先に考えるべき ・ 教育分野への影響も大きく、就職や進学に関する社会的な意思統一が必要 ・ 学費等の保障や教員の退職時期など検討すべきことが多い ○ 現状を考えると実施すべきでない <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ対応の中で教育制度の変更をすべきではない ・ 感染収束の見通しが不明確の中で、議論することに疑問あり ・ 生徒の心的負担を考えると年度途中の変更は不安が大きい

【小・中学校】

生徒・保護者	校長・教員
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度途中の実施に賛成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の機会が保障され、修学旅行や運動会など行事の実施が可能になる ・ きめ細かい準備と保護者や子どもへの十分な説明があれば納得できる ・ 足並みを揃えて平等に学習できるので、学習の遅れを取り戻せる ○ 慎重に検討が必要 (今年度途中からの実施は困難) <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者も子どもも具体的にイメージできず、どちらとも言えない ・ 9月再開も不透明なので、1年遅らせることも同時に検討してほしい ・ 地域によって実態が異なる中で、どうすれば子どもたちが早く学校に通えるかを考えてほしい ○ 現状を考えると実施すべきではない <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月入学制度の検討より、新型コロナ拡大防止等の対応に力を入れてほしい ・ 9月までに制度を整えるのは難しく、今後の混乱が心配である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度途中の実施に賛成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの影響によらずとも、9月入学は国際標準である ・ 9月までは前年度の未指導分の学習補充期間とすることで、余裕をもって今年度のカリキュラムを終えることができ、新しい時代をつくる前向きな動機付けとしたい ・ 夏休みを返上して登校することによる熱中症の心配も軽減する ○ 慎重に検討が必要 (今年度途中からの実施は困難) <ul style="list-style-type: none"> ・ 十分な議論を経て制度設計する必要があり、現状では意義や方向性、具体的な手順が示されていない ・ 将来的にはよいと思うが、今はオンライン授業等の環境整備が先である ○ 現状を考えると実施すべきではない <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後4か月で何を準備すれば混乱なくスムーズに移行できるか予想できない ・ 感染防止措置や授業再開準備などやるべきことが多く、さらに混乱をまねく